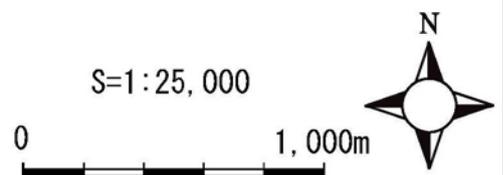


凡 例

- : 計画地
- : 山腹崩壊危険地区
- : 崩壊土砂流出危険地区
- : 地すべり危険地区

参考：山梨県 森林環境部環境部 治山林道課林道課 山梨県山地災害危険地区位置情報

図 4-1-8 山地災害危険地区位置



### 3) 地質

図4-1-9に計画地周辺の地質を示す。計画地は、地体構造区分上、南部フォッサマグナに位置し、フォッサマグナに広く分布する新第三系が基盤となっている。フォッサマグナの新第三系は、グリーンタフ活動に伴った海底での激しい火山活動の堆積物を主とした碎屑岩類(安山岩, 玄武岩, 凝灰角礫岩)である。これら新第三系は、巨摩山地・富士川谷・御坂山地・丹沢山地などの地域に分布している。

計画地周辺に分布する地質は、新第三紀中新世の御坂層群と富士川層群に対比される地層群である。これら地層群は一括して丹沢層群とも呼ばれており、海底火山活動による火砕物(凝灰岩や溶岩など)や陸域から運ばれた碎屑物(泥や砂礫など)から構成されている。そしてそれらの地層は、丹沢山をほぼ中心としたおおよそドーム構造となっている。

計画地付近に分布する基盤地質は、古第三紀瀬戸川層群の最上部、春気川累層に該当する。この地層は主に粘板岩、千枚岩、頁岩からなる。北西一南東方向の走向で北へ高角度で傾いている。基盤地質を被覆して、笹子川の谷底低地には河床堆積物が、背後山地の山麓部には崩積土砂が分布している。

図4-1-10に計画地周辺に分布する主要な断層及びリニアメントを示す。主要な活断層としては、計画地の南側、鶴ヶ鳥屋山の北側斜面を藤野木一愛川構川構造線が東西に走っており、計画地の東方、藤沢川より東側の構造線上に扇山断層が存在する。また、笹子川一藤沢川合流点付近を発端に西北西方向および南南西方向にそれぞれリニアメントが存在する。扇山断層は『[新編] 日本の活断層一分布と資料一』によると確実度Ⅱ(活断層と推定されるもの。位置・変位のむきも推定できるが、「活断層であることが確実なもの」と判定できる決定的な資料に欠ける)とされている。また、リニアメントは『[新編] 日本の活断層一分布と資料一』によると確実度Ⅲ(活断層の可能性はあるが、変位の向きが不明であり、また、他の要因によってリニアメントが形成された疑いが残るもの)とされている。